

伝統遊具づくり 吹き戻し

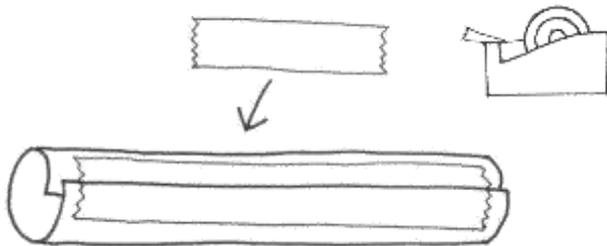
「吹き戻し」は、昭和の初期頃から日本中で生産され、「巻き笛」や「へび笛」などいろいろな名前で親しまれてきました。現在でもお祭りの露店などで見かけることの多い遊具です。

発祥は中国といわれていますが、残念ながら詳しい歴史はわかりません。

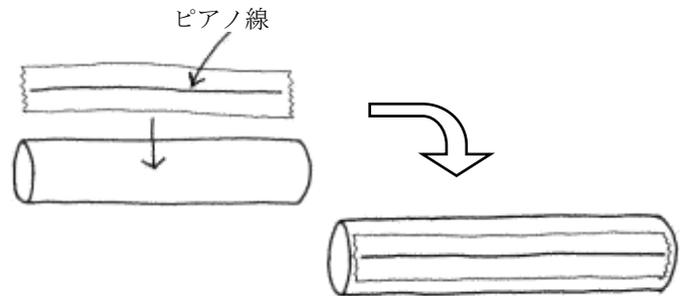
材料：薄い紙（トレーシングペーパー等）・太めのストロー・ピアノ線・画用紙
道具：はさみ・カッター・セロテープ・サインペン

《作り方》

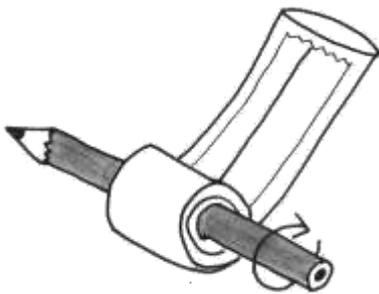
1. 薄い紙を長さ18cm、幅4cmくらいに切り、細長い筒状にしてセロハンテープでとめる。



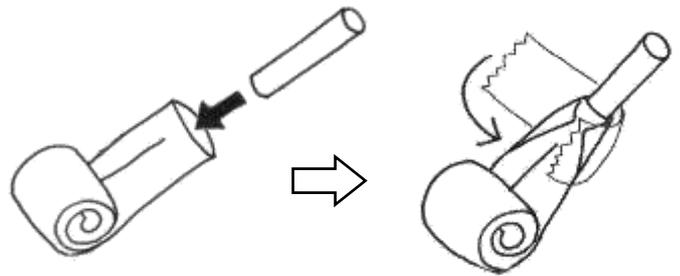
2. ピアノ線を筒の長さに合わせて切り、セロハンテープで筒の中心に貼り付ける。



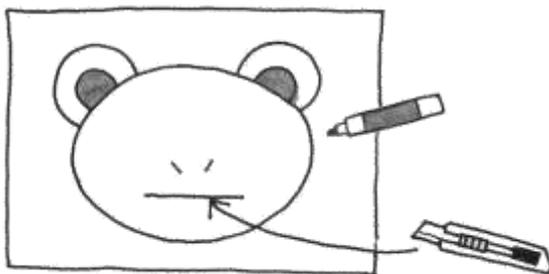
3. ピアノ線を貼った面が内側になるように、細い棒などに巻きつけ、巻きぐせをつける。



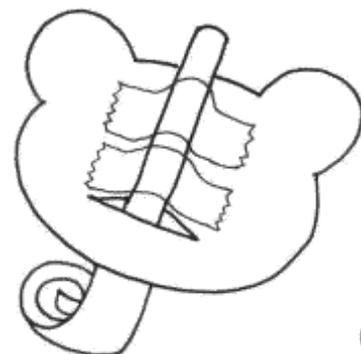
4. 巻きぐせのついた筒にストローを差込み、継ぎ目をセロハンテープでとめる。



5. 画用紙に好きな絵を描き、切り取る。筒を差し込む部分にカッターで切り込みを入れる。



6. 画用紙の切り込みに筒を差し込み、裏側をセロハンテープでとめる。



《遊び方》

ストローを吹くと、先の巻紙が勢いよく伸び、口を離すと元の形に巻き戻ります。

